

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	仕事里親ネットワーク構築事業
資金分配団体名:	一般社団法人SINKa
実行団体名:	NPO法人国際教育支援機構スマイリーフラワーズ
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	社会的養護入退所児童

Version 3.2

日付: 2022年3月13日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>様々な理由で親を頼れず児童養護施設や養育里親家庭で暮らす子どもたちは、多くの場合18歳で施設を退所し、一人で社会で自立しなければならない。帰る実家を持つ一般家庭の若者に比べ、社会的養護から社会へ巣立つ若者たちは生きるために限られた選択肢の中から仕事を選び、且つ一度脱落すると再起が非常に困難になるという現状がある。学歴や専門資格等の少なさからもサービス業や非正規雇用で従事している者も多く、今回の新型コロナウイルス感染拡大は収入の減少や生活基盤を直撃する深刻な問題となっている。</p> <p>この状況を緊急的かつ長期的に取り組むべき課題ととらえ、地域企業のネットワークを構築し、支援体制を整えていく。特に社会的養護から実社会へと巣立つ若者が抱える様々な課題（保証人有無、住居、社会経験、養育背景など）を理解し、社会人として自立できるよう育ててくれる雇用主（仕事里親）のネットワーク構築が必要となる。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>企業ネットワークの構築を主な取り組みとして行ってきた。課題として、地域企業からの取り組みへの理解は多く集めることができたが、雇用という段階においては難色を示す企業が少なくなかった。それは、施設退所者だからという理由ではなく、社会的養護を経験して、現在行く場所が無いから雇用するというには、企業側のリスクや負担が大きすぎる、という理由によるものである。</p> <p>そのため、職を失った若者に対して地域協力企業の雇用を繋ぐという当初の構成から見直す必要が生じた。そこで、地域の協力企業の中で、今すぐ雇用受入までは難しいという企業にも、見学・体験（インターンも含む）という形で協力依頼を行い、ネットワークを構築したうえで、①退所した者で、他の職種や仕事に興味がある者・転職を希望している者にキャリア構築を行う機会をつくる、②施設で生活する中高生たちに退所する前からのキャリア教育を行うという2つの取り組みを構築することとなった。</p> <p>①を実施することにより、人材としての価値を高め、企業との信頼関係をつくり雇用につなげる、②を実施することにより、社会変化に適応できる人材として育成し、将来的な離職のリスクを軽減することを期待できる、という中長期的な課題改善へのアプローチの実施に繋がった。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
生活困窮者	就業困難	社会的養護を経験した若者が抱える困難や課題を理解し、その雇用主としてネットワークに参加される	依頼した企業数と登録企業数	登録企業 100社	依頼企業 63社 登録企業 6社	社会的養護経験者で困っているという理由だけでは企業側に雇用のリスクと負担があまりに大きく、受入企業の拡充が思うように進まなかった。また受益者の課題も見つかри、雇用前にお互いの信頼関係を築く機会を作ることと、受益者側の人材の価値を高める必要性を確認した。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	社会的養護に暮らす又は退所する子どもや若者が抱える困難や課題を理解し、職場見学の受け入れ企業としてネットワークに参加される	依頼した企業数と登録企業数	登録企業 100社	依頼企業 63社 登録企業 24社	見学に関しては、企業としてもハードルが引くこともあり、多くの参加企業を募ることができた。また、地域企業では人材不足が起きていることも事実であり、若者の選択肢として知ってもらうことにメリットを感じてもらえる企業もあった。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	社会的養護に暮らす又は退所する子どもや若者が抱える困難や課題を理解し、職業体験の受け入れ企業としてネットワークに参加される	依頼した企業数と登録企業数	登録企業 100社	依頼企業 63社 登録企業 11社	体験への協力企業も多く募ることができた。しかし、実施するという段階に、どのような体験をするかを詰めておかなければ、マッチングミスになる可能性もあるため、今後、重点を置いて検討しなければならない。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	福岡県内および近郊において、趣旨に理解賛同する100企業の仕事里親を確保し、各企業の受け入れ情報を集約した専用のWebページを開設します。それを当法人が繋がる施設退所児童（約40名）と、県内20の児童養護施設を通じて退所済みの児童（約200名程度/各施設10名計算）へ情報提供し、今回の新型コロナウイルス感染拡大によって失業や収入が減少した退所者の就労又は再就労を支援します。
考察等	今年の取り組みは新型コロナの影響もあり、福岡市周辺を中心として企業に声をかけることとなった。ネットワークに参加していただける企業は〇社募ることができた。しかし、雇用に至るまでに必要な段階があることもわかったため、事業全体の見直しとネットワークの更なる有効活用方法を構築するため、専用のWebページに関しては、完成には至らなかった。また、施設へのアプローチも新型コロナの影響のため、十分には行えなかった。 しかしながら、今年の取り組みにより、仕事里親ネットワークの更なる有効活用方法と問題が発生した若者以外の早期予防システムの構築につながったことは成果として考えられる。

V. 活動

活動	進捗	概要
児童養護施設等に意見を求める	計画通り	想定した児童養護施設職員からの意見の聞き取りを行うことができた。
企業、雇用主へ声掛けを行う	遅延あり	(1)活動を進める中で必要に応じた事業内容の修正を行った為、(2)コロナによる緊急事態制限及び蔓延防止による活動の制限
登録企業を募る	遅延あり	(1)活動を進める中で必要に応じた事業内容の修正を行った為、(2)コロナによる緊急事態制限及び蔓延防止による活動の制限
専用Webページを開設する	遅延あり	活動を進める中で必要に応じた事業内容の修正を行った為、Webサイトの構成や打ち出し方の確定に時間を要した。
メディアリリースを行う	遅延あり	活動を進める中で必要に応じた事業内容の修正を行った為、メディアへのリリース内容を確定しきれなかった。
参加する児童養護施設を募る	遅延あり	事業の再構築を行っていく必要が生じたため、児童養護施設全体への参加案内までには至らなかった。
企業への勉強会を行う	計画通り	企業が集まる勉強会等を主催及び参加し、当事業の取り組みを説明できた。
各施設退所児童への情報提供をする	遅延あり	事業の再構築を行っていく必要があったため、児童養護施設への十分な説明ができなかった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>企業にとっての「雇用」のハードルが想像以上に高かったため、事業の方向性を改めて考えざるをえない機会となった。しかし、それにより、地域協力企業のネットワークとなる「仕事里親」の更なる有効活用方法を見出すことができたのは良い結果になったと思われる。また、事業を再構築していく中で、企業の見学・体験の場の活用方法として、キャリアという視点から、社会的養護経験者の就労を見直すことができ、施設で生活している段階の中高生から卒園後の就労まで連続性を持って、キャリア構築をサポートできるプログラムを考案することができた。</p> <p>そして、このプログラムの構築により、当法人全体の方針を見直すことができ、今後、認定NPO法人格を取得し、本格的に社会的養護経験者のキャリア支援に取り組んでいくことを法人全体として意志決定できたことも大きな成果となった。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>当初、社会的養護経験者の若者の就労の問題は、「早期の離職」であり、それは単純に未成熟な状態による社会への強制的な自立に伴う仕事や社会での生活への意識の低さなどが要因であると捉えていた。確かにそれは一つの要因ではあったが、社会的養護対象となることも・若者の置かれている状況をキャリアという視点から見たときに、改めて様々な課題が複合的にあることがわかった。</p> <p>それは、長期的なキャリア形成の視点の欠如、キャリア形成機会の著しい不足、キャリア形成に対する意欲の低さなどである。特に変化が早く、新型コロナのように突発的な適応が求められる現代社会においては、その変化に適応し、安定して仕事ができるように自身のキャリアを積み上げておくことが必要となる。加えて、1つの企業で働き続ける働き方も変わっているため、様々な場所で活躍できなければ、低所得者層に留まるリスクが生まれ、様々な連鎖につながることもある。これらの状況に対し、私たちは助成期間での活動を通し、課題解決に直結すると思われるプログラムを考案することができた。今後は、これらの気付きに対し、多くの市民からの理解と協力が得られるよう、認定NPO取得を目指して取り組んでいきたい。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
フィロソフィ経営実践塾（旧盛和塾福岡）	事業についての広報並びに児童養護施設等に暮らす子どもたちへの理解を深める勉強会を隔月で実施開催・延べ42社が参加

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,551,000	3,061,104	86.2%
	管理的経費	462,000	416,616	90.2%
合計		4,013,000	3,477,720	86.7%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	・2021年11月26日 コミュニティラジオ天神「Global Café」出演
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	・名刺 ・「しごと里親」ロゴマーク ・事業案内チラシ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	・事業用名刺にシンボルマークを掲載 ・事業用プレゼン使用にシンボルマークを掲載 ・事業で使用する備品として購入したモバイル式の外部ディスプレイにシンボルマークのシールを添付
4.報告書等	・2022/2/18 事業実施報告プレゼン資料（*添付）

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	